

倉敷市保健師の仕事紹介・新任期保健師Q&A



倉敷市の 保健師 になろう



《採用に関する問い合わせ先》

倉敷市職員採用試験委員会

電話086-426-3141

〒710-8565 倉敷市西中新田640番地



職員採用パンフレット

《保健師に関する問い合わせ先》

倉敷市保健所 保健課総務係

電話086-434-9800

〒710-0834 倉敷市笹沖170番地

倉敷市民の健康を守る、とてもやりがいのある仕事です。

倉敷市の保健師として一緒に働きませんか

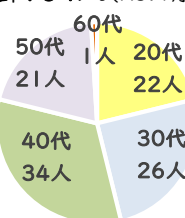
倉敷市で保健師として働きたいと思ったださる方に出会えることを楽しみにしています。



倉敷市保健所
副参事兼保健課長
小原 美由紀(統括保健師)

倉敷市は、人口48万人の自然に恵まれ文化豊かな魅力あふれる市です。現在100名を超える保健師が、保健所と倉敷・児島・玉島・水島・真備の5つの地区に設置された保健推進室を拠点に地区特性を生かした市町村業務に加え、保健所としての専門的な業務も担い市民の健康をトータルに支援しています。倉敷市は、保健師が生き生きと保健活動を展開できるように「倉敷市保健師人材育成ガイドライン」により人材育成に取り組んでおり、職場の仲間同士が育ち合う体制の中、働きやすい環境づくりに努めています。

年代別保健師数
合計104人(R5.4月時点)



倉敷市保健師の目指す姿や活動指針

倉敷市の目指す保健師像

- 地域への責任感
- 地域への愛
- 住民に信頼される人間味
- プロ(保健師専門職)としての強い自覚
- きいて、みて、感じて動かす発信力

倉敷市保健師の活動指針

保健師活動理念

倉敷市保健師は、全ての市民を対象とし、市民の生命、健康、生活を守るという信念を持っています。

保健師活動で目指すところ

一人ひとりの健康を守る力を引き出し、病気(障がい)や寝たきりになっても、生き生きと安心して過ごせる地域を市民と共に目指します。

保健師の主な配属先

倉敷市役所本庁舎

真備支所



真備



玉島支所



水島支所

児島支所

倉敷市役所本庁舎

- 健康長寿課
- 国民健康保険課
- 生活福祉課
- 子ども相談センター
- 人事課
- 福祉支援連携室

倉敷市保健所

- 保健課
 - 総務係
 - 感染症係
 - 保健医療係
 - 精神保健係
- 健康づくり課
 - 健康管理係
 - 健康増進センター
 - 倉敷保健推進室

児島・玉島・水島・真備支所

- 児島保健推進室
- 玉島保健推進室
- 水島保健推進室
- 真備保健推進室

保健師の仕事内容

保健師が活躍する主な配属先の仕事内容をご紹介します。

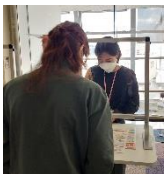


住民により身近な存在として、住民の健康を支える 倉敷・児島・玉島・水島・真備保健推進室

倉敷・児島・玉島・水島・真備保健推進室では、担当地区を受け持ち、赤ちゃんから高齢者まで、幅広い年代の方々を対象に保健活動を行っています。
地域の健康を支える専門職として、家庭訪問や健康教育・相談、幼児健診等を行う他、地域の様々な人、組織、団体等と共に、健康な地域づくりを目指し活動しています。



母子保健・成人保健分野の企画調整、現任教育を担う 健康づくり課(健康管理係・健康増進センター)



健康くらちゃん



3ベジちゃん

市民の皆さんの健康づくりに関する施策を企画する部署として、
・母子保健・成人保健の企画や統括、健康増進計画の推進、現任教育(研修)を行っています。
・成人の健康診査や保健指導、がん検診、各種啓発などを行っています。

中核市として保健所業務の企画調整・実施等に取り組む 保健課(総務係、感染症係、保健医療係、精神保健係)



健康危機に備えた体制づくり、結核やエイズ等感染症への対応、難病を抱える方の相談や支援体制づくり、精神障がいを持つ方やその家族への支援等を行っています。



ほっちゃん

「健康長寿のまち」の実現を目指す 健康長寿課(地域包括ケア推進室)

市の主要施策の一つである「健康長寿のまち」の実現を目指し、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます。



笑ちゃん

保険者として健康づくりに取り組む 国民健康保険課

倉敷市国民健康保険加入者を対象に、生活習慣病発症予防や重症化予防に向けた保健事業、特定健診を行っています。



市職員の健康をサポート 人事課

市職員が健康で安全に働くことができるよう、健康管理を行っています。生活習慣病予防や重症化予防に向けた健康診断や保健指導、メンタルヘルス相談、病気休職からの復職支援等に関わります。



児童虐待防止等子育て家庭を支える 子ども相談センター



児童虐待の対応や関係機関への研修・啓発、児童福祉の視点で0~18歳までの相談対応を行っています。



生活保護受給者の健康づくりに取り組む 生活福祉課

生活保護受給者の生活習慣病の発生予防や重症化予防等に向けた健康管理や相談、精神疾患や依存症の方への支援をケースワーカーと連携して行っています。



分野を超えて包括的に支援を行うための体制づくり 福祉支援連携室

主に保健福祉分野の多岐にわたる事業を知り「縦割りを超え横に橋をかけていくような」事業(重層的支援体制整備事業)として、支援者支援の観点も入れた仕組みを構築しています。



保健師人材育成・研修制度

倉敷市は、市職員としての行政職研修に加え、専門能力の向上のために、『倉敷市保健師人材育成ガイドライン』を踏まえた専門職研修（現任教育体制）が充実しています。

全ての保健師が公衆衛生を担い、地域住民の健康な生活を守ることができる倉敷市の「人財」となれるよう、より質の高いサービスとしての保健活動の提供を目指し、様々な専門職研修を行っています。

また、新任保健師が気軽に相談したり、分からないことが聞けたりできるように、若手保健師がプリセプターとして新任保健師に寄り添って育ち合う体制としています。プリセプターのサポートや職場全体の育ち合いの風土で、いつでも相談でき、安心して仕事に取り組むことができます。

倉敷市職員研修体系	行政職研修	基本研修	新採用研修、階層別研修、昇格者研修、キャリアデザイン研修
		実務研修	政策形成能力養成、自己管理能力養成、コミュニケーション能力他
		特別研修	メンタルヘルス研修、人権セミナー、OJTスキルアップ研修他
	専門職研修	階層別研修	新任期、中堅期（前期・後期）、リーダー期 管理期研修、プリセプター研修、H30年豪雨災害伝承
		派遣研修	国立保健医療科学院、各種学会 全国保健師長会主催研修、厚生労働省（長期）他



新任期保健師の1年目の研修（R5年実施分）

5月	・倉敷市の現状、地区踏査・地域診断 ・新任期保健師からみたH30豪雨災害 【GW】有事において地区担当として知っておくべき情報とは
6月	・家庭訪問の基本、【デモスト&ロールプレイ】乳児訪問の基本 ・妊娠期から産後の食事と離乳食のポイント 【ふれあい&質問】育休中の先輩保健師とのふれあい
8月	・倉敷市の地域住民組織と保健師が支援する意義について （愛育委員会・栄養改善協議会・親子クラブ・心ほっとサポーター他）
10月	・事例検討～アセスメント力向上を目指して～
1月	・地区踏査を踏まえた地域診断の発表

プリセプター制度

採用1～3年目の職員には、職場の少し先輩の保健師がプリセプターとなり、日常業務の相談等が気軽にできます。

職場内OJT

所属する職場で、日常業務を通してOJTを行っています。対人支援や地区活動における組織支援などの事例検討や「災害」「組織育成」等のテーマを設定して学び合う機会も設けています。

ジョブローテーション制度（人事異動）

地区担当部署・企画・調整部門、分散配置部門等と幅広い業務を経験することで、視野を広げ、様々な立場での思考プロセス、視点を獲得していくことができます。

※新任期研修のグループワーク&発表の様子



※受講者の声

日々の家庭訪問等
ケースワークの積み重ねが大切。



倉敷市職員・保健師としての研修が多くあり、力をつけていくことができる！

新任期研修が充実しており、保健師スキルを身につけることができる

新任期の教育体制が手厚く、多くの学びがある

<育児休暇中の保健師さんに育児のことを聞いてみよう！>



乳児の発育発達や、日常の育児のリアルについて育児休暇中の先輩保健師から学びます。

新任期保健師



児島保健推進室
秋山 恵里 令和5年度入庁



水島保健推進室
羽場 麻依花 令和4年度入庁



玉島保健推進室
嶋崎 舞 令和3年度入庁

Q1 倉敷市役所を志望した理由は？

秋山: 大好きな地元になんか恩返ししたいと思ったからです。

羽場: 大学生時代の4年間倉敷市で暮らす中で、自然豊かで、交通の便が良く、買い物場所も揃っている等、住みやすさを感じたため、倉敷市で働き過ごしていきたいと思ったからです。

嶋崎: 生まれ育った倉敷市のために働きたいと思ったからです。

Q2 保健師になろうと思ったきっかけは？

秋山: 地域で生活する方が少しでも長く、自らの思い描く生活を自らの持つ力で送ることができたら良いのになんかと思った事がきっかけです。そこで保健師として心身の健康を支援することで地域の方の思い描く生活、健康的で質の高い生活につなげていきたいと思ったからです。

羽場: 元々医療関係の仕事に興味を持っていました。高校生の時「保健師」という職業を知り、人々の健康を守り生活を支えられる保健師になりたいと思い、志すようになりました。また、病棟実習で、入院患者さんと家族の多くが自宅や地域に戻ることに對して不安を抱えていることを知り、安心して地域で過ごせるように支援できる保健師になりたいという思いが強くなりました。

嶋崎: 病院での実習中に、退院される患者さんの「地域での生活」について考えたことがきっかけです。住み慣れた地域でその人らしく生活するために、サポートができる保健師になりたいと思いました。

Q3 今は、どんな業務を担当していますか？

秋山・羽場・嶋崎: 幼児健診や親子教室など母子保健の業務を主に担当しています。

～ちょっと解説～

倉敷市では、新任期(入庁1～3年目)は、地区担当部署を経験し、地域保健活動の基礎を固めます。そのため、人口規模に応じて1～2小学校区を担当し、その地域で生活される方の家庭訪問や健康相談など、乳幼児から高齢者まで幅広い年代の方々の個別・家族支援を行います。

ある一日のスケジュール

08:30 始業
09:00 訪問準備
10:00 家庭訪問
11:00 訪問記録作成
12:00 昼食・休憩
13:00 小学校で健康教育
(認知症サポーター
養成講座)
16:00 報告書作成
17:15 終業

08:30 始業
09:30 育児相談
12:00 昼食・休憩
13:00 報告書作成
14:30 家庭訪問
16:30 訪問記録作成
17:15 終業

08:30 始業
09:30 愛育委員会で
健康教育
12:00 昼食・休憩
13:00 報告書作成
14:00 家庭訪問
15:30 訪問記録作成
17:15 終業

窓口対応や家庭訪問、健康相談、地域の事業等で、お昼休憩の時間がずれたり、残業をすることもあります。

Q4 これまでの保健師業務で嬉しかったことは？

秋山:関わっている方と一緒に悩み、考えていく中で、その方の喜びや満足な気持ちにつながった時に嬉しいと感じました。また、「あなたには相談できる。」と関わっている方から言ってもらえた時、今まで一緒に築いてきた時間を大切にできてよかったと思ったとともに、これからも保健師活動を頑張っていきたいと思いました。

羽場:精神疾患を抱える方のご家族から相談を受けた時「こんな話、周りの人にはなかなか話せないことだから、あなたに話を聞いてもらえただけで少し気持ちが楽になった。ありがとう」と感謝された時、保健師をして良かったと感じました。

嶋崎:お子さんの発達に不安があるお宅に訪問してもらい、後日そのお母さんが会いに来てくださり「あの時は訪問に来てくれてありがとう」と言ってくださった時、少しでもお母さんの助けになれたことが嬉しかったです。

Q5 就職後の保健師業務において、驚いたことは？(就職前に想像していたことと違ったこと等)

秋山:様々な分野の業務を並行して行うこと。日々沢山の学び、出会いにつながっていること、関わる職種の広さに驚きました。慣れないこと、日々難しさを感じることもありますが先輩方に相談しながら成長できるように頑張っています。

羽場:就職後、すぐに学区担当を任せられると思ってなかったので、驚きました(自分の考えが甘かった)。初めは何をしていいかわからなかったり、悩んだりすることもたくさんありましたが、先輩方に相談して、助言をいただきながら、少しずつ一人でできることが増えていきました。

嶋崎:就職したタイミングがコロナ禍ということもあって、地域に出向いて活動することが難しい時期がありました。今は徐々に地域の行事に参加できるようになり、地域の方とたくさん話ができるので、とても楽しく活動しています。

Q6 現在の職場の雰囲気やプリセプター制度、現任教育体制はどう？

秋山:プリセプターに相談できる環境や新任期研修、職場での事例検討を通して、保健師活動に直接活きる考え方・知識を身につけることができています。小さなことから大きなことまで、何でもプリセプターさん、職場の先輩方にお話しできる環境があるからこそ、初めての経験やわからないことが相談できやってみよう、頑張ってみようという気持ちになります。

羽場:仕事に関する悩み事や困り事を相談しやすい職場であり、親身になって自分の話を聞いてくれ、アドバイスしていただけます。昼休みには先輩方とプライベートの話をして盛り上がることもあり、とても楽しい良い職場です。新任期研修やOJT、自主勉強会等、様々な研修を受けることができ、勉強できる機会もたくさんあるため、知識の習得や自分のスキルアップにつながっています。

嶋崎:経験豊富な先輩保健師ばかりのため、業務の中で迷ったり悩んだりした時はいつも相談しています。優しく助言をしていただいて、「そんな考えがあったのか」と気づくことも多いです。プリセプター制度もあり、日々の業務のことなどとても相談しやすい環境です。また、特に新任期(1~3年目)の研修は充実しており、同じ新任期の仲間と情報交換をしながら学べる機会になっています。



行政保健師を目指す皆さんへのメッセージ

倉敷市は、保健師自主勉強会(Immクラブ)や新任期保健師研修会で同期・先輩方と一緒に学ぶ機会、お話する機会があるため普段の職場は離れていても交流の機会が持てるのがとても嬉しく、良い学びにもつながっています。倉敷市の保健師としてぜひ一緒に活動できるのを楽しみにしています。 秋山

保健師という仕事は楽しいことばかりでなく、もちろん不安なこと、悩むこともたくさんありますが、そんな時には必ず先輩方や同期が助けになってくれます。倉敷市の保健師として一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

羽場

地域の中で働く保健師としていろいろな住民の方と出会い、やりがいを感じながら活動しています。個別の関わりの中で悩むこともありますが、上司や先輩から助言を受け、その方のために何ができるのか考えながら関わっています。倉敷市は研修体制も充実しており、保健師として日々スキルアップできる環境です。倉敷市の保健師として、一緒に活動できたら嬉しいです。 嶋崎